

心不全委員会

松田 英之/久家 由美

心不全委員会とは

心不全委員会は、当院における心不全診療の課題を共有し、その解決に向けた協議を行うことを目的として、2024 年 5 月に設立された。

本委員会の主な目的は以下の 3 点である。

- ① 多職種連携による心不全診療体制の強化と、療養支援の質向上を図り、効果的な療養管理・療養支援につなげること。
- ② 外来および入院患者に対し、セルフコントロールの確立に向けた支援が実践できるよう、関連部署と連携し療養管理・療養支援に関する事項を協議すること。
- ③ 心不全による入院期間の短縮および再入院予防に向けた院内外の連携強化を図ること。

さらに、院内活動にとどまらず、心不全診療の質向上を目的とした対外的な活動の推進にも取り組んでいる。具体的には、心不全療養指導士の活動支援や地域連携の強化、勉強会や研修会の企画・運営を通じて、地域全体における心不全療養支援体制の構築を目指している。

委員会は、循環器内科医と心不全看護認定看護師、看護部、リハビリテーション部、臨床栄養部、薬剤部など多職種で構成される心不全療養指導士で構成しており、心臓リハビリテーション指導士などと連携し、心不全チームとして組織横断的に活動している。

2025 年 活動実績

実績として、2024 年に退院した心不全患者を対象に、2024 年 1 月 1 日～ 2025 年 12 月 31 日までの 1 年間を追跡した結果、心不全再入院は実人数 116 名、延べ 194 件であり、2025 年までの 1 年以内の再入院率は 23.6%であった。(2024 年に退院した心不全患者の 1 年アウトカム)。2025 年の急性非代償性心不全で入院した患者の平均在院日数は 19.0 日（前年比 -1 日）であった。2025 年度の心不全相談窓口への相談件数について、院外から電話で対応した件数は 38 件であった。相談元は、患者本人・家族、訪問看護師、ケアマネージャー、他施設医療者など多岐にわたり、主に心不全症状など体調変化に関する相談内容であった。

主な活動内容

1) 心不全チーム介入評価表の運用

当院における心不全入院患者は年間 500 名を超えており、全症例へのチーム介入は人的資源の観点から困難である。

そのため、優先的に介入が必要な患者を抽出する目的で「心不全チーム介入評価表」を作成した。あわせて院内に周知用チラシを配布し、該当患者について各部署から心不全チームへ連絡が入る仕組みを構築している。



2) カンファレンスの実施

心不全患者の療養管理に関する多職種での情報共有と意思統一を目的に、定期的なカンファレンスを実施している。

- ① 心不全多職種カンファレンス：週 1 回（毎週金曜日 15 時～16 時）開催し、2～3 名の心不全患者について病態、療養状況、支援方針の共有・検討を行っている。
- ② 心不全委員会：月 1 回（第 2 金曜日 16 時～17 時）開催し、心不全チームの運営方針や課題について協議している。

3) 心不全看護外来、外来心臓リハビリテーション、外来栄養指導の拡充

心不全再発予防には個々に応じた生活調整、食事調整、運動指導が必要である。そのため、外来にて多職種による生活調整や外来心臓リハビリテーション、栄養指導を行っている。

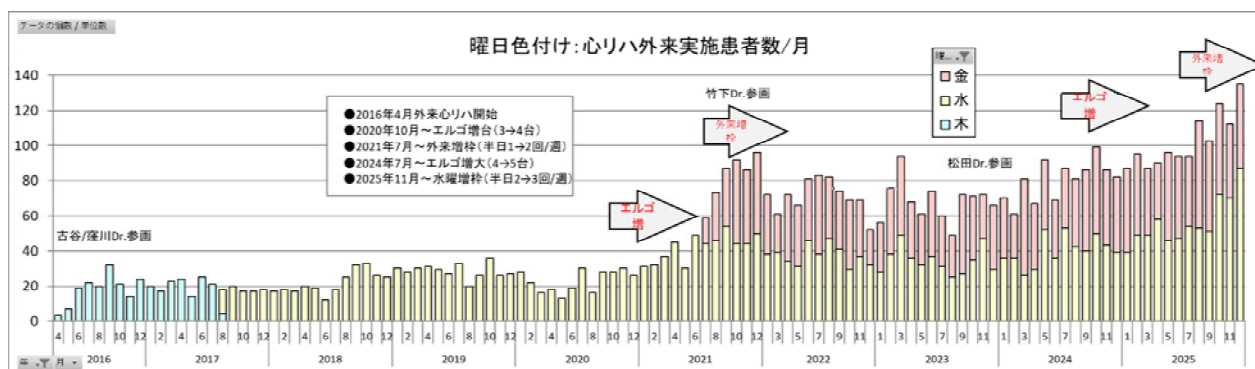
○心不全看護外来

○看護外来：2025年1月～12月				(慢性心不全看護 外来)								
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	12	30	9	13	8	23	14	25	8	8	13	17
心臓外来	90	99	28	96	105	101	96	94	93	84	101	137

○外来栄養指導

	栄養指導		InBody
心りハ月別	加算	非加算	加算
2025年1月	22	0	23
2025年2月	25	0	23
2025年3月	22	0	22
2025年4月	24	0	21
2025年5月	24	1	17
2025年6月	25	0	22
2025年7月	28	0	20
2025年8月	26	0	21
2025年9月	25	1	25
2025年10月	23	0	20
2025年11月	27	1	23
2025年12月	35	0	31
合計	306	3	268

○外来リハビリテーションの推移



4) 心不全チェックリストの運用

従来、心不全増悪の早期発見は自覚症状や体重変動に依存していた。

これを補完するため、在宅や他施設においても早期に異常を察知できるよう、心不全療養指導士を中心にチェック項目を整理した「心不全チェックリスト」を作成している。

5) 心不全申し送りシートの運用

心不全患者の療養管理には、ADL や生活背景、価値観（死生観）などの情報共有が重要である。これまで職種ごとに分散していた情報を一元化し、効率的な共有を図るため、心不全療養指導士を中心に「心不全申し送りシート」を作成中である。

現在は複数施設で試験運用を行い、運用上の課題を踏まえた改訂を進めている。

6) ICT 活用の促進

心不全患者の継続的な療養支援には、医療機関のみならず介護施設、薬局、訪問看護ステーション等との連携が不可欠である。従来は電話や紹介状を中心とした連携であったが、より迅速かつ双方向の情報共有を目指し、ICT の活用を検討している。

現在、県内で活用されている「あんしんネット」「はたまるネット」「高知家@ライン」等の地域連携ツールの導入を視野に入れており、特に「あんしんネット」については当院が主体となって説明会を実施し、具体的な活用について検討を進めている。

7) 心不全療養セミナー（心不全の勉強会）の開催

多職種による療養支援の質向上を目的に、院内において3か月に1回、心不全に関する勉強会を開催している。また、Web 配信（ホームページでのアーカイブ配信）を行うことで、院外の医療・介護従事者も聴講可能とし、地域全体における心不全療養支援の知識向上を図っている。

演題	発表者	開催回	開催
新（心）ガイドラインアップデート2025 ～最新の心不全GLを総ざらいしちゃう～	細田 勇人	第28回	2025/6/13
心不全診療における臨床工学技士の役割	西村 有司	第29回	2025/9/26
心不全における心房細動など不整脈治療	小松 洵也	第29回	2025/9/26
CPXで繋がる心不全と心臓リハビリ～ ”しんどい”が見える世界にようこそ～	黒川 夢彦	第30回	2025/12/4
高齢心不全患者へのアプローチ	橋田 芳恵	第30回	2025/12/4
心不全における低栄養について	徳永 結愛	第31回	2026/3/26
複雑化する心不全治療薬の“今”をつかむ	中山 拓紀	第31回	2026/3/25

8) 院外勉強会の運用、参加

他施設との勉強会の運用、参加も積極的にしている。竹下病院の竹下先生が中心となっている「リハビリテーションcafé」、在宅医との連携のための「末期心不全在宅移行の会」、高知大学久保先生が中心となった県内の心不全連携のための「高知心不全連携の会」等に参加している。

9) 心不全療養指導士の育成

心不全療養支援の質向上を目的に、心不全療養指導士の育成に取り組んでおり、定期的に勉強会も実施している。これまで認定試験に24名が合格し、院内外における専門的人材の拡充につながった。今年は新たに6名が受験した。

10) 学術発表・講演会等

心不全チームメンバーが一人ひとり自主的に学会発表をしてくれている。

演題名	発表者に ○	学会名	開催
	共同研究者		
心不全療養指導士セッション 『超高齢化の高知県でその人らしい暮らしを支える地域連携と療養支援』	○久家由美	第89回日本循環器学会学術集会	2025.3.28～3.30 (横浜)
Impella5.5 補助下の安全な離床実施にむけたとりくみ	○橋田芳恵	第89回日本循環器学会学術集会	2025.3.28～3.30 (横浜)
心不全地域連携における管理栄養士の役割	○宮島功	第89回日本循環器学会学術集会	2025.3.28～3.30 (横浜)
がん治療関連心筋障害患者に対する心臓リハビリが有効であった症例	○久家由美 細田勇人 松田英之 中岡洋子 關秀一 川井和哉	第126回日本循環器学会中国四国合同地方会	2025.6.29 (高松)
生活習慣や患者の価値観に沿った個別的な療養支援により再入院を予防できた症例	○井上有紗 久家由美 細田勇人 松田英之 中岡洋子 關秀一 川井和哉	第126回日本循環器学会中国四国合同地方会	2025.6.29 (高松)

自己管理に自信がなかった心不全患者の再入院を予防した1例	○竹内愛理 久家由美 森本和加 黒川夢彦 竹下昌宏 川井和哉	第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2025. 7. 19～7. 20 (名古屋)
退院20日後に再入院となってしまう超高齢心不全症例への退院支援の振り返り	○藤山祐司	第31回心臓リハビリテーション学術集会	2025. 7. 19～7. 20 (名古屋)
地域にて心臓リハビリテーションが継続できるような急性期病院より介護保険サービスを推進する取り組みが重要	○藤山祐司	第31回心臓リハビリテーション学術集会	2025. 7. 19～7. 20 (名古屋)
高齢心不全患者の脆弱期を支える栄養管理	○宮島功	第31回心臓リハビリテーション学術集会	2025. 7. 19～7. 20 (名古屋)
心臓リハビリテーションにおける栄養管理の必要性	○宮島功	第31回心臓リハビリテーション学術集会	2025. 7. 19～7. 20 (名古屋)
社会的フレイルの状態である高齢心不全患者への療養支援に関する報告	○井上有紗 久家由美	第22回日本循環器看護学会学術集会	2025. 9. 14～9. 15 (仙台)
アントラサイクリン系抗がん薬治療で心不全となった患者に対する心不全療養支援の1例	○和田絢世 久家由美	第22回 日本循環器看護学会 学術集会	2025. 9. 14～9. 15 (仙台)
外来心臓リハビリテーションでの管理栄養士の役割	○宮島功	第73回日本心臓病学会学術集会	2025. 9. 19～9. 21 (高知)
フレイル高齢心不全患者の栄養療法	○宮島 功	第29回心不全学会学術集会	2025. 10. 10～ 10. 12 (米子)
多職種連携を通じて再入院を予防し得た心不全患者への栄養支援の経験	○伊東世奈	第29回心不全学会学術集会	2025. 10. 10～ 10. 12 (米子)
講演・外部講師			
内容	講師	主催	開催
心不全療養における水分管理を考える	宮島功	進め。心不全療養指導士	2025. 2. 21

高知県の病病、病診連携の現状と課題	伊藤世奈	進め。心不全療養指導士	2025. 2. 21
当院における心不全患者への栄養管理について	伊藤世奈	第 6 回心不全地域連携フォーラム	2025. 5. 28
循環器疾患の復職支援に向けた Mets 応用 ～産業医に聞いて欲しい心臓リハの話～	前田秀博	令和 7 年度高知県産業医学研修会	2025. 6. 23
包括的外来心臓リハビリテーションを実施して QOL が向上した症例	亀岡弓佳	第 28 回ヨサコイ Meeting	2025. 7. 28
Impella5.5 補助下で離床～LifeVest 装着下で外来心リハにつなげた症例	橋田芳恵	第 16 回高知県心臓血管心疾患リハビリテーション研究会	2025. 11. 1
心不全ステージ B に対する療養支援 –看護師の役割–	久家由美	循環器疾患未来投資フォーラム 高知分科会 看護師ミーティング ベーリンガーインゲルハイム（株）	2025. 11. 4 (高知)
その人らしい暮らしを支える看護師が繋ぐチーム医療	久家由美	宮崎県延岡市ジャディアンス講演会 日本ベーリンガーインゲルハイム（株）	2025. 11. 27 (宮崎)
執筆			
食事を十分に摂取したうえで、活動を促進する心臓リハビリテーション	久家由美	ハートナーシング 2025 Vol. 38 No. 5	メディカ出版
ライフスタイルに合わせた食事と運動指導で支援する心臓リハビリ	久家由美	ハートナーシング 2025 Vol. 38 No. 6	メディカ出版
当院 ICU での心臓リハビリテーションの実際	橋田芳恵	日本心臓リハビリテーション学会誌 vol. 31.No2 2025	